

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人梓友会	代表者	川島 優幸	法人・事業所の特徴	下田市で唯一の小規模多機能型事業所で、下田市全域を営業範囲として対応可能である。 開設当初から、地域の方と「健康で生活を送る」をテーマに講義や活動を「健康プラザ」行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護みくらの里	管理者	舘林 悦子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	8人

項目	前回（H29年度）の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回（H30年度）の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所の自己評価会議に運営推進委員が1名参加する	日程調整ができず、運営推進委員の参加依頼できなかった 昨年度の資料がなく具体的な評価がしにくかった	職員の自己評価により、改善点や弱点が明確化され、各自今後の課題や自己目標の意識づけとなった	事業所の弱点を克服できる勉強会の開催により、職員一人一人のスキルアップを図る。
B. 事業所のしつらえ・環境			運営推進委員として関わることで、施設に対する興味や親近感は沸いているが、見学等の機会がなかった	健康プラザや運営推進会議等の折に施設見学会を設けていく 実際に活動している様子を見ていただくことで、スタッフが緊張感を持てるように工夫する
C. 事業所と地域のかかわり	区の回覧で小規模多機能のチラシを配布する	健康プラザを通して少しずつ知られてきてはいるが、さらに地域を巻き込んだ行事等によりPRにつなげる	建物自体は地域の方もわかっているが、事業内容まで理解されていないため、見学会や相談会等検討していく	健康プラザの継続、地域での防災訓練等、地域の方とのつながりを重視した活動を行っていく
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			自己評価でも地域とのかかわりが弱く、スタッフも苦手意識が強い 地域行事や外出レクも多く企画し、利用者と地域活動を行っている	地域の方が集まれるサロンのような活動を続けることで、多世代交流が図れるよう努める
E. 運営推進会議を活かした取組み		運営推進会議での活動報告で、事業の内容や状況がわかる機会となり、改善案を話し合うことで質の向上が図られる	地域の方との情報交換の場として生かしていく 地域での防災活動等、地域と施設で協力し合える体制を作る	地域の情報を共有し、地域課題解決に向けた貢献ができるように努める
F. 事業所の防災・災害対策	福祉避難所としての機能を充実させる	みくらの里が福祉避難所となることを知らなかった また、防災規定があることも知らなかった	津波避難時は、隣接の特養に避難となり誘導が大変である。地域との防災訓練等で協力し合える体制を作っていきたい	地域と協働の防災訓練の実施を検討する